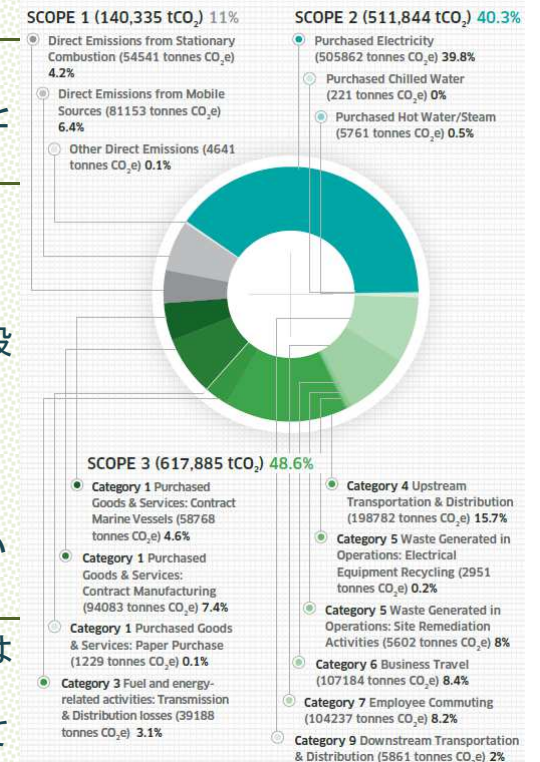


各社の考え方

<p>□ 算定を行う背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2008年にScope3における初めの算定対象として出張のカテゴリの算定を始め、以降、毎年算定範囲を広げ、2011年時点では9カテゴリの算定を行っており、今後も範囲を広げていく予定である。 ● サプライチェーン排出量の算定を行うことは、自社の環境へのインパクトを認識するだけでなく、サプライヤーと協働することでどれだけの貢献を行うことができるかを認識することが重要である。
<p>□ 算定結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 算定結果についての情報は、CDPへの報告、CSR報告書での開示、消費者や株主への公開など様々な要求に対して活用している。
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動量として物量や金額のデータを収集することで、コスト削減、将来の排出削減の予測、取引先の環境への取組の評価を行うことができる。
<p>□ 算定方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● カテゴリごとに異なる算定方法を採用して推計を行っている。 ● 出張のカテゴリについては、世界中の従業員の出張に関するデータを旅行代理店から入手し、適切な原単位を用いて算定している。 ● 輸送のカテゴリについては、航空機、船舶、トラックなどの輸送手段別に輸送量と距離を把握して算定を行っている。 ● 通勤のカテゴリについては、従業員の通勤形態に関する調査を毎年行っており、これに基づいて算定している。 ● 製造委託先での排出(カテゴリ1)については、委託先から排出量のデータを収集しており、委託合計額の90%以上がカバーされている。その後100%まで拡大推計している。
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 初めはEnablon社のWebベースのツールを活用していたが、現在は社内で開発したEXCELベースのツールを使用している。 ● また、この1年にHARA社によるツールを採用しており、これによって気候変動、水、廃棄物に対する取組を評価できるようになった。

2011 CARBON FOOTPRINT ASSESSMENT



各社の考え方

□ サプライチェーン排出量の削減に向けて

- 物流の分野については、海運輸送の割合を増加させる、よりスマートな輸送を行うなどの取組を行っている。
- 出張を減らすためのテレビ会議の活用、在宅勤務の奨励などの取組も行っている。
- 在宅勤務については、フランスでは47%の従業員が週に1日以上在宅勤務を行っている。これによってCO2の削減だけではなく、オフィススペースの有効活用、省スペース化が可能になった。

□ サプライチェーン排出量算定の課題

- Scioe3の算定を行う際には、カテゴリごとにバウンダリを慎重に設定する必要がある。
- サプライヤーから算定に必要な全てのデータを収集することは困難であり、まずは適切な算定方法で推計を行う必要がある。
- サプライチェーンの排出量を算定するためには非常に多くのデータを扱う必要があり、データの入力ミス等が生じてしまう可能性が高い。如何に簡易にデータを収集し、とりまとめることができるかをWRIとともに検討している。

□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

- 算定が容易なカテゴリから始めることは重要だが、継続的に算定を実施するとともにその範囲を広げていく取組が重要である。そのためには、ある程度の推計や手間を省く手段が必要であり、何らかのツールやサービスなどを活用することも有効である。
- 地域ごと、国ごとなどに分けてサプライチェーン排出量を把握するなど、サプライチェーンをマネジメントする上で重視する目的に合わせて算定を行い、集計していくことが重要である。
- 活用するツールなどについても目的に合わせて改修し、より長くより広範に算定を行うことも重要である。

NUMBER OF TELEWORKING DAYS PER WEEK

SEVEN DAYS - 3%
 SIX DAYS - 1%
 FIVE DAYS - 9%
 FOUR DAYS - 2%
 THREE DAYS - 2%
 TWO DAYS - 9%
 ONE DAY - 17%
 NONE - 58%

